

Q&A

Q 高校で文系を専攻していても受験できますか？

A はい、本学部は文系の方も広く募集しております。

社会課題をデジタル技術で解決することに興味がある方であれば高校時代に物理を履修していなくても受験することができます。AI 単元修了型の総合型選抜を利用して、数学を勉強する方法もございます。また、本学部は入学後に数学や物理といった基礎を学べる科目を履修することもできます。

Q 既存の「情報学部」や「工学部」とはどのように違いますか？

A 本学部は「社会にどう実装し実現するか」に重きを置いています。

理系学部の中でもアントレプレナーシップ（起業家精神）やソーシャルイノベーションなど、技術理解のみならず社会への実装方法についても深く探究します。詳細は 5 ページ目の「学ぶことができる学問分野一覧」にてご紹介しておりますので、是非ご参照ください。

Q PBLで赴く場所は具体的にどこでしょうか？

A 宮城県を中心に東北地方の地域課題が顕著な場所へ実際に赴いてフィールドワークを行う予定です。

本学は宮城県に所在する私立大学ですが、宮城県のみならずフィールドを限定せず、宮城県を中心に、東北地方の中でも地域課題が顕著であるエリアも対象を含めて、現地調査を含めた PBL 型学習を行う予定です。

Q プログラミングでソフトを作ったりしますか？

A 既存のソフトウェア活用がメインです。

本学部はソフトウェア開発のエキスパートを育成するカリキュラムではないため、ゼロからソフトウェアを作成することは予定していません。ただし対話型 AI を活用してプログラムを書き、オリジナルのソフトウェア開発を行うことは奨励しております。

Q 将来どのような職種が想定されますか？

A 主に課題を技術で解決するプロジェクトを企画し関係者をリードする立場です。

デジタル技術を用いて課題解決する方法を提案し、社会実装に向けた具体計画を立て、関係各所と連携をとりながらプロジェクトを管理する力を養う本学部では、プロジェクトマネージャー / プロダクトマネージャーや、事業の企画立案者、あるいは企業や行政の技術責任者といった役割が想定されます。

Q 将来どのように活かすことができますか？

A 在学中の学びの積み重ねに応じて、就職先の選択肢を広げることができます。

本学部は入学された方々が、さまざまな先端技術に触れ、活用できる環境を整えています。積極的に学べば IoT や VR 機器、AI 技術といった先進的なテクノロジーの知識や経験を身につけることができます。修得した知識や技術を地域課題の解決に実装する経験を積み、その実績は就職活動や就職後も活かすことができると考えます。

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

未来探究科学部 デジタル構想学科

GUIDE BOOK

2027-04 Start!

デジタル技術で地域課題を解決する。^{ハック}



SPECIAL WEB SITE

学部特設サイト限定のコンテンツも掲載中
<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/faculty/future/>

Be TG
OPEN CAMPUS 2026

LINE 東北学院大学 公式アカウント
入試に関する最新情報配信中

オープンキャンパス情報公開中
<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/admission/opencampus/>



東北学院大学

■土樋キャンパス 〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目 3-1

■五橋キャンパス 〒984-8588 宮城県仙台市若林区清水小路 3-1

公式ウェブサイト <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>



東北学院大学

地域社会の課題を、 デジタル技術で解決する。

AIが急速に進化し、文章も画像もつくり、何ならテストの問題だって解けてしまう。
でも、日常のリアルな景色の中で未来を感じるのはほんの少して、
ニュースやドラマに登場する都市部の景色ばかりが未来に染まっていないだろうか？
今の問題は「デジタル技術が進んでいるのに地方への実装が遅いこと」であり、
「デジタル技術を扱える人が都市部に集中していること」が主な理由だ。
だから、この新しい学部ができた。
ここでは、AI・VR・IoTなど最新のデジタル技術とともに、地域課題の解決事例を学ぶ。
そして、この東北地方のさまざまな課題をその目で見て、チームで考え、協力し、
技術による解決策を構想し、実装できる力を身につけていく。

デジタル技術に基づく企画力が、未来を創る。
きっと濃密でワクワクに満ちた4年間で君を待っている。

OUR FEATURES



中村 教博 (なかむら のりひろ)

Norihiro Nakamura

東北学院大学高等教育開発室教授(高等教育開発室長) 博士(理学)

専門分野: 地球電磁気学・災害科学

静岡大学理学部地球科学科卒業

東北大学理学部研究科地球科学専攻博士課程前期・博士課程後期修了(専門: 地球惑星電磁気学/災害科学)

カナダ・レイクヘッド大学(日本学術振興会海外特別研究員)、東北大学高度教養教育・学生支援機構学際融合

教育推進センター長を経て、2023年から現職、25年4月から理系新学部設置準備委員会委員長



学部ガイダンスムービー
<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/faculty/future/>

01 反転型プログラム

課題を見つめ、スキルを得る。

地域課題を出発点に解決策を考え、そのために必要なIoTやAIなどを学びます。基礎科目を学んでから課題に取り組む「積み上げ型学習」とは異なり、課題に求められる知識やスキルを身につける学習法です。



02 学びのゴールは“社会実装”

デジタル開発は、あくまで手段。

本学部では「解決できるデバイスやアプリができた」で終わることはありません。出来上がったデバイス・アプリを社会に実装する段取りを考え、関係者と協力しながら実際に試した上で、成果が出るか検証します。



03 デジタル技術 × 企画発想力

アイデアと行動力あふれる方を歓迎。

本学部は、社会課題を観察してデジタル技術で解決するアイデアを生む「企画発想力」が養われます。そして、実現させるための「プロジェクトマネジメント能力」も磨かれます。数学や理科が苦手であっても「デジタルで解決する人になりたい」という想があれば、どなたでも歓迎します。



これらを実践型で学ぶ形式 **PBL** Project-Based Learning

詳しくは次のページ▶

未来探究科学部 デジタル構想学科 [入学定員]110名

身につける力

- 豊かな人間性と正しい倫理観、創造性
- デジタルテクノロジーを活用した社会課題の解決策を構想し、検証・改善できる資質・能力
- 多様な背景をもつ関係者と共にプロジェクトを運営・推進する資質・能力

養成する人材

キリスト教に基づく人格教育を通して、最先端のデジタルテクノロジーの技法と、そのテクノロジーを駆使した社会課題の解決方法を実装するためのマネジメント技法の両面を備えた人材を養成。

アドミッションポリシー

- 1 東北学院大学の教育理念である「キリスト教による人格教育」を基礎とする教育プログラム(聖書とキリスト教に関する授業及び大学礼拝など)について理解し、主体性を持ちつつ多様な人々と協働して学ぶことを強く望んでいる。(主体的に学ぶ態度)
 - 2 数学や物理を基盤とする科学技術と社会課題に関する広い知識の獲得に意欲があり、未来探究科学部の教育理念・目的や教育内容を理解した上で、主体的な学びを通して社会に貢献することを強く望んでいる。(主体的に学ぶ態度)
 - 3 高等学校における学習によって、未来探究科学部での学修に必要な高等学校卒業相当の基礎的知識及びそれらを活用する力を有している。(知識・技能)
 - 4 高等学校において得た知識・技能を活用し、達成すべき水準の思考力及び日本語を用いて、大学での学びに関わる基礎的・一般的問題及び質問に文章及び口頭で答えることができる。(思考力・判断力・表現力)
- 以下の項目に該当する者については、5又は6を評価に加える。
- 5 スポーツや文化活動などで優れた実績を残し、本学入学後も課外活動の活性化に貢献しようと考えている。(知識・技能/主体的に学ぶ態度)
 - 6 外国人留学生、帰国生、社会人として、大学における学修にそれぞれの強みを生かそうとしている。(知識・技能/主体的に学ぶ態度)

AIを使い倒す PROJECT-BASED LEARNING

プロジェクト型課題解決学習

好奇心をもって、
全力で挑もう！

プロジェクトベースラーニング(PBL)とは、学習者自らが実社会における課題や問いを見つけ、その解決策を探究する中で知識や実践力を身につける教育手法です。座学中心の受動的な学習とは異なり、主体的・協働的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の中核として注目されています。

■地域と連携して、社会課題に取り組む。

実際に課題に直面している地域に赴き、現地声を聞きながら解決に向けた具体策を考え進めていきます。本学のある宮城県を中心に、東北地方の「地域課題の今」に飛び込んでいきます。



■動くからこそ、「なりたい」に気づける。

はじめから自分の将来を明確に抱いて入学する方はごくわずかです。抱いていたとしてもそれが本当に適切かは分からないものです。本学部では、PBLを通じて行動を重ねることで「私ってこういうことでワクワクするんだ」という自分の好奇心や興味に気づきやすいことが特徴です。もし今「何になる？」と思っているのなら、PBLを通じて行動を重ねていける本学部をお勧めします。

伝統芸能を ICT 技術で
存続支援する新規事業のプランナー
伝統工芸・文化・芸能を次世代へ



後継者不足の一次産業を AI で
ロボティクス化するシステムプランナー
スマート農業のさらなる進化へ



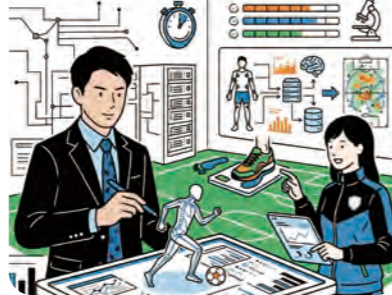
国際化する地方都市のインバウンドを
支援するコーディネーター
知られざる日本を世界へ！



地方都市の介護問題を解決する
アプリ開発のプロジェクトマネージャー
見守り支援で安心できる老後



スポーツの競技力向上が目的の
分析機器を開発するシステムエンジニア
効果的な練習方法を分析・提案

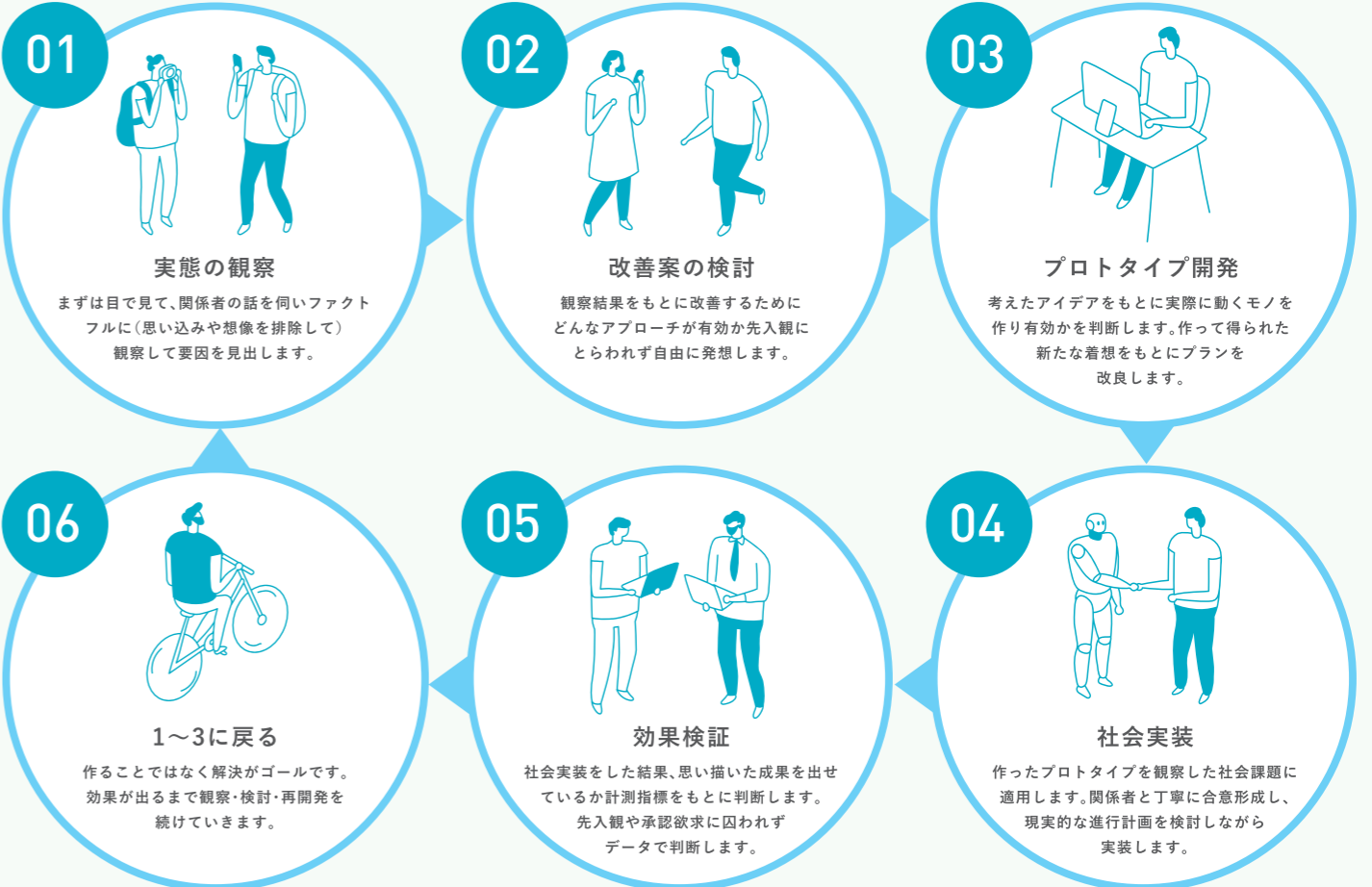


NPO 法人で社会課題を解決する
プロジェクトのリーダー
地方の U ターン・I ターンを支援



■PBL 実践の流れ WORK FLOW OF PBL

右脳(企画)も左脳(分析)も、全身(観察・行動)も忙しい！



■課題の具体例

ケアマネジャーや高齢者の実際の声をもとに、デジタルで業務負担を下げるアイデアを考案せよ。



農家さんの直販所の収益性や利便性をデジタルでどう解決できるか提案せよ。

地域集会所の管理・運用の課題を明らかにし、IoT機器等を用いたデジタルによる解決策を提示せよ。



自由なアイデアと柔軟な組み合わせで、デジタルソリューションを生み出そう。

この学部はデジタル技術をあくまでも「手段」として捉えます。

解決すべき課題に対して柔軟な発想で解決アイデアを練り、適切なデジタル技術を組み合わせ

あなたらしいのソリューションを提示してください。

解決しうる仕組みを押し付けるのではなく、実装する側も納得できて喜べる策を実施する難しさと面白さを、ぜひ実感してみてください。

